



## 1399 「つなみ～被災地のこども80人の作文集～」2011年8月臨時増刊号(文藝春秋)

○「お母さんをかならず見つけます」大槌小学校5年 八幡千代さん

つなみについて  
三月十一日、つなみのサイレつがなつた。その時、わたしたちは、大槌小学校にいました。じしんが起きて、みんなすぐつくえにかくれました。その時、わたしは、もう、なみだがとまりませんでした。しばらくすると、ほうきがながれて、静かに、校庭にひなんしてください。という放送がながれて、わたしはなきながら友達と校庭に行きました。そのあと先生たちは、会議が始まりました。わたしたちは、泣いていました。よく見ると、低学年の人たちはあまりなみという言葉を知らないからだと思いました。そのあと、しろ山体育館の広場に集っていたり、ゴゴゴゴゴ。と言った地鳴が聞こえました。その時つなみが土けむりをまき上げおそってきました。そして、ちよう上まで走って逃げました。そして

津波で母の千果さんが行方不明となった。父の光徳さんは釜石市で仕事をしていたが、夕方になって自分が大槌に帰るまで「被害が自分の大槌に及んでいるとは、なぜか想像もしなかった」。

光徳さんは「一番大事なのは娘、でも一番大好きなのは妻」と公言してきた愛妻家だった。震災から二か月が経っても、光徳さんは毎朝自宅があった場所に向かい、「半分だめだろうとわかっているはずなのに」千果さんの搜索を続けている。

にかるよ中につなみを見ました。家から家とかがあつてついに、海にまで火がついていました。しばらくつなみを見ていてそして、だれかが、山に火がついている。と言いました。そのあとに、またもどつて体育館の中に入りました。その夜にやとパパに会えました。その時は、ほっとしました。そして夜が明けわたしのだいいな、お茶をとりに、もりおかに行きました。夜、ゲソソ音がなくなつたので、ガソリつをいんぱのお友達の家に三日とまって、今いるかつし小学校にひなんしました。そして、何日かすると、学校が始まりました。始業式の時に、ひさしがりにお友達と会えました。今、学校は、山田の青少年の家にかよっています。二、三ヶ月後には、北小学校に行く予定になっています。お母さんは、まだ見つかりませんが、かみならず見つけて、三人で仲良くくらしたいです。

★ 「お母さんは、まだ見つかりませんが、かならず見つけて、三人で仲良くくらしたいです。」この一文が、とても切ないです。

9年たっても、この思いは消えないことでしょう。



